

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21226014	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	中近東・北アフリカにおけるビザンティン建築遺産の記録、保存、公開に関する研究	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	日高 健一郎（東京藝術大学・美術学部・講師）

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる	
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である	
○	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

当初の計画は、中近東・北アフリカなどビザンティン建築遺産を持つ様々な国々のビザンティン建築遺産を調査記録し、その保存、公開のための具体的な方策を開発する極めて包括的なものであった。しかしながら、研究開始後に生じたこれらの国々での政情並びに治安の悪化など研究代表者自身の責に帰せない事情もあり、当初の計画どおりの研究実施が行われていない。研究進捗状況報告を見る限り現時点で、学術成果が挙げられているものは、トルコ、ハギア・ソフィア大聖堂に限られているようである。研究代表者が当初意図した中近東・北アフリカなど広範な領域でのビザンティン建築遺産を対象とし、考古学領域、保存・修復領域、工学領域、活用・公開領域にわたる包括的な研究が順調に進んでいるようには思われない。例えば工学的領域を担当する遺跡の風環境の観察から得られる情報による材料表層の劣化・消失モデルの作成など当初研究計画に記載された具体的な成果が報告されていない分野もある。研究を意味あるものにするために、当初の研究計画を見直し、残された期間で基盤研究（S）に相応しい学術上の成果を挙げることを大いに期待する。

【平成27年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、十分ではなかったが一応の成果があった。
B	十分ではないことの主因は、研究計画時点及び研究計画変更時点では予想できなかった政情不安により調査ができなかったことによる。制約のある中で調査できたビザンティン建築遺産を対象に、3次元スキャナー等による現状記録がなされている。しかし、目標とした古代建築の影響とビザンティン建築の固有性を明らかにするまでには至らず、初期教会堂・ビザンティン考古学の例示という目標の達成も不詳である。水分移動や塩分によるモルタル・レンガ・石材の経年変化メカニズムについては貴重な知見が得られ、ハギア・ソフィア大聖堂を対象とする振動解析等により、一定の知見も得られた。しかしながら、残存構造を保護する保存方法を決定するまでには至らず、当初予定した遺跡の風環境実測、風による表層劣化などについても着手できなかったと思われる。調査対象国の関係者との情報交換により、研究手法や学識の移転に関する成果は得ているが、遺跡の保存公開方法に関する運営計画の提示には至らなかったと思われる。